

般若波羅蜜多心經

般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不减是故空中无色無受想行識無眼
耳鼻舌身意識無色聲香味觸法無眼耳鼻
無意識界無五明二無無明盡乃至無老死
二無老死盡無苦集滅道無智二無得無
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
罣礙無罣礙故無有恐怖遠離顛倒夢想
究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
多是大神呪是大明呪是無上呪是無等
呪能除一切苦真實不虛故說般若波羅
蜜多呪即說呪曰
揭諦揭諦般若波羅蜜揭諦般若波羅蜜
揭諦揭諦般若波羅蜜揭諦般若波羅蜜
般若波羅蜜

右為

〇

〇

〇

〇

↑ここに願い事を書きます(文例については別紙参照)

年

月

日

姓名氏名

般若波羅蜜多心經
はん にや は ら みつ た しんぎよう

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時。照見五
蘊皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不
異色。色即是空。空即是色。受想行識。一如如
是。舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。
不增不减。是故空中無色。無受想行識。無眼
耳鼻舌身意。無聲香味觸法。無眼界。乃至
無意識界。無五眼。一空。空即無。明。乃至
無量阿僧祇劫。空無所住。行深般若波羅蜜多
時。所得般若提薩。持依般若波羅蜜多。故心無

罪けい 累げ 無む 量りょう 微けい 故こ 無む 有ゆう 恐おそ 怖ふ 遠とん 離り 願げん 創そう 始し
想そう 究く 竟ぎょう 渥ね 辱はん 三さん 世ぜ 諸しよ 能え 依い 股はん 若にや 波は 羅ら 蜜みつ 多た
得とく 阿あ 耨のく 多た 羅ら 三さん 耨みやく 三さん 善ぜん 提だい 故こ 若にや 波は 羅ら 蜜みつ
多た 是ぜ 大だい 神じん 呪しゆ 是ぜ 大だい 明みょう 呪しゆ 是ぜ 大だい 明みょう 呪しゆ 是ぜ 大だい 明みょう 呪しゆ
多た 呪しゆ 即そく 呪しゆ 日にち
能た 除しよ 一いつ 切さい 苦く 真しん 實じつ 不ふ 虛こ 故こ 說せつ 股はん 若にや 波は 羅ら 蜜みつ
多た 呪しゆ 即そく 呪しゆ 日にち
股はん 若にや 多た 心しん 經ぎやう

右為

年 月 日

姓名氏名

→ここに願ひ事を書きます(文例については別紙参照)

般若波羅蜜多心經

般若波羅蜜多心經（一）

觀自在菩薩、深般若波羅蜜多時

照見五蘊皆空、度一切苦厄

觀自在菩薩、深般若波羅蜜多を行いし時、五蘊は皆空なりと照見し、一切の苦厄を度したまふ。

觀自在菩薩が深遠なる「英知の完成」を実践（修業）していた時、こう省察した。

世界に存在するものには五つの構成要素しかなく、かつそれらはその本性からして、本来空虚なものだと。このように見極めることによって、すべての苦悩・災いを取り除かれたのであった。

舍利子、色不異空、空不異色、色即是空、空即是色

受想行識、二復如是

舍利子よ。色は空に異ならず、空は色に異ならず。色は即ち是れ空なり、空は即ち是れ色なり。受・想・行・識も亦復た是くの如し。

舍利弗よ（と彼は言った）。（この経験的世界の内部においては、）物質的現象は空虚であることを離れて存在しないし、空虚であることを離れて物質的現象は存在しない。物質的現象というものはそのまま空虚であるし、空虚性がそのまま物質的現象なのである。同じことは、受・想・行・識にもあてはまる。（つまりこれらは）実体なく空虚なのである。

舍利子、是諸法空相、不生不灭、不垢不淨

不増不减、是故空中无色、无受想行識

无眼耳鼻舌身意、无色声香味触法

舍利子よ。是の諸法は空相にして、生ぜず滅せず、垢つかず淨からず、増さず減らず、是の故に空の中には色無く、受・想・行・識無く、

眼・耳・鼻・舌・身・意無く、色・声・香・味・触・法無し。

世界に存在するものは全て、空虚であることをその本質としている。生成することなく消滅することなく、汚れることなく清浄になることなく、増大することなく減小することがない。それ故に（舍利弗よ）、本質としての空虚という立場（根拠）にあつては、物質的現象（色）は存在せず、受・想・行・識も存在しない。眼・耳・鼻・舌・身・意（の六根）も存在しないし、色・声・香・味・触・法（の六境）も存在しない。

无眼界、乃至无意识界、无五明、二无智

乃至无老死、一无生死、无苦集灭道、无智

二无得

眼界無く、乃至意識界無し。無明無く、亦無明の尽くこと無し。苦・集・滅・道無く智無く、亦得無し。眼識から意識に至るまでの（六識）の領域も全て存在しないのである。無明から老死に至る（十二因縁も）存在することはない、またそれらが消滅することもない。苦悩も、苦悩の根源も、苦悩を制することも、苦悩を制する道も存在せず、覺りを知ることなければ、体得された理法もない。

般若波羅蜜多心經

般若波羅蜜多心經(2)

無所得故 菩提薩埵 依般若波羅蜜多故

心無罣礙 無有恐怖

遠離顛倒夢想 究竟涅槃

得無所無以故、菩提薩埵は、般若波羅蜜多に依るが故に。

心に罣礙無し。罣礙無きが故に、恐怖あること無く、顛倒夢想を遠離して、涅槃を究竟す。

何かを、(それを存在するものとして) 得るということがないゆえ、菩薩(求道者)達は「英知の完成」に依拠して心を何かに束縛されることがない。心に束縛がないから、恐怖の感情がなく、迷いを離脱して、窮極的な涅槃の境地に到達しているのだ。

三世諸佛 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提

三世の諸仏も、般若波羅蜜多に依るが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得たり。

過去・現在・未来の三世に現れる諸々の仏陀(覺者)達も、(全て)「英知の完成」に依拠するがゆえに、無上の覺りを得られたのだ。

故知 般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪

是無上呪 是無等等呪 能除一切苦 真實不虛故

故に知るべし、般若波羅蜜多は是れ大神呪なり、是れ大明呪なり、是れ無上呪なり、是れ無等等呪なり。能く一切の苦を除き、真實不虛なるが故に。

それ故、(人は) 知るがよい。「英知の完成」は偉大な真言である。偉大な覺りの真言である。至高の真言である。比類無き真言である。それは一切の苦悩を打ち払うのである。偽るところがなく真実であるがために。

說般若波羅蜜多呪 即說呪口

揭諦揭諦 般若波羅蜜多 揭諦揭諦 般若波羅蜜多 善提莎婆訶

般若多心經

般若波羅蜜多の呪を説く。即ち呪を説きて曰く、
揭諦揭諦・般若波羅蜜多・般若波羅蜜多・善提莎婆訶
般若多心經

「英知の完成」において、真言は次のように説かれた。

ガテー ガテー パーラガテー パーラサンガテー ボーディ スヴァーハー

参考文献
・二玄社 中国法書選1の 集字聖教序 東晋 王羲之
・マール社 書聖名品選集3 王羲之 集字聖教序

はんにゃはらみつたしんぎょう 般若波羅蜜多心經というお経があります。

その内容は、

この世界に存在する全てのモノは、五つの要素で出来ています。

- 一、色（いろ）という、この世界の物質のこと、
- 二、受（うける）という、あなたの感情のこと、
- 三、想（おもい）という、あなたの気持ちのこと、
- 四、行（おこなう）という、あなたの意志のこと、
- 五、識（しる）という、お互いを認識すること、です。

そしてそれらは、そもそも空虚という、空っぽで虚ろなものなのです。

そう捉えることによって、あなたの悩み苦しみは無くなります。

モノとして存することは、空っぽで虚ろなことからは離れられないし、その逆もありません。

この世界に存在する全てのモノは、空っぽで虚ろであることが本当のことなのです。

モノが新しく出来たり消えたり、汚れたり奇麗になったり、大きくなったり小さくなったりすることもあります。

あなたの見えること、聞くこと、嗅ぐこと、味わうこと、感じること、思うこと、これらの五つの感覚と一つの意識も存在しないものなのです。

眼に見えることから意識まで存在しないものなのです。

産まれてくることが存在するということではなく、死ぬことも消えるということではないのです。

悩み苦しみやその根っこもそれをコントロールする方法もなく、覚りを知ったりそれを体得する方法もありません。

何かを得るという方法はないので、求道者達は「英知の完成」に依って、心が縛られることもなく、縛られていないので恐怖もなく、迷うこともなく、道を極めた境地に達しているのです。

過去、現在、未来に現れる仏様たちも全て「英知の完成」に依って自ら覚りを開き、たくさんの人々を救っているのです。

そのために、知って下さい。

「英知の完成」は素晴らしい真実の言葉です。究極の言葉です。偉大な覚りの言葉です。比類ない言葉です。

それはすべての悩み苦しみを打ち払います。偽らない真実であるために。

そして「英知の完成」は、次のように説かれています。

ギャーティ ギャーティ ハラギャーティ
ハラソーギャーティ ボジソワカ

という言葉で「英知の完成」のエッセンスがここに示されました。

最初の書き出しの定規替わりにお使い下さい

半紙ヨコ（B4 ヨコ）版▽



半紙タテ（B4 タテ）版▽



祈願文例

心願成就

災難消滅

家内安全

障害打破

家運隆盛

厄難消滅

鎮宅除災

運氣改善

開運除災

商売繁昌

夫婦円満

社運隆盛

延寿福樂

受験合格

身体健康

入試合格

身心健全

入社合格

無病息災

学業優秀

当病平癒

諸芸上達

良縁成就

火難除け

子宝成就

交通安全

安産成就

旅行安全

除災招福